

# くしろ 男女共同参画通信

発行日：平成15年1月7日

Vol. 4



〒085-0018 釧路市黒金町7丁目4番  
釧路市教育委員会生涯学習部生涯学習女性課

31-4579 Fax22-9096

「くしろ男女共同参画プラン」の目標 2  
家庭・地域・職場における  
男女共同参画をめざして  
についてプランの内容を紹介します。



## 1. 家庭における男女共同参画の促進

- ・男は仕事、女は家庭といった、性別による固定的役割分担意識を是正するための広報・啓発活動に努めます。
- ・父親が積極的に家庭教育に参加できるように支援に努めます。
- ・働く人が職業生活と家庭・地域生活を両立できるように支援に努めます。
- ・育児・介護に関わる家族の負担を軽減するための支援施策の充実に努めます。

## 2. 地域社会における男女共同参画の促進

- ・男女の職場中心の生活意識を改めるとともに、地域活動への男女共同参画が促進されるような広報・啓発活動に努めます。
- ・地域活動への男女共同参画が促進されるように、労働時間の短縮など就業条件の整備に努めます。

## 3. 自営業における男女共同参画の促進

- ・農林水産業・商工業等の自営業に従事する女性の貢献を正當に評価し、社会的認知を高めるとともに、経済的な地位の向上に努めます。
- ・農業協同組合・漁業協同組合等への女性正組合員としての加入と役員への登用や方針決定過程への参画の促進に努めます。

## 4. 就労環境における男女共同参画の促進

- ・男女の均等な雇用機会と待遇が確保されるように、労働者、雇用者及び社会一般への意識啓発に努めます。
- ・パートタイム労働者・派遣労働者等の就労環境が整備されるよう、関係機関と連携を図りながら、啓発活動を推進します。
- ・育児や家族の介護を行う労働者が働き続けやすい環境となるように、企業等に対し理解と協力を求め、育児・介護休業制度の普及に努めます。

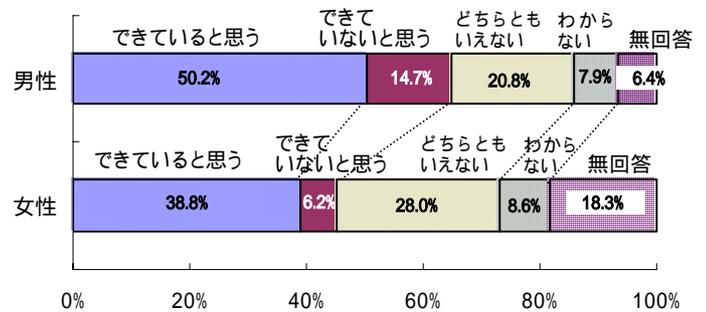
「くしろ男女共同参画プラン」の策定（平成九年十一月）から五年が経過しました。昨年「くしろ男女共同参画推進懇話会」で見直し作業をすすめてまいりました。本年も男女共同参画通信「くしろ男女共同参画プラン」の内容を紹介しながら、「くしろ男女共同参画プラン」の目標である「男女平等観」にたつた人権の確立や社会参加が広がる地域・職場でより広がるよう情報を提供してまいります。



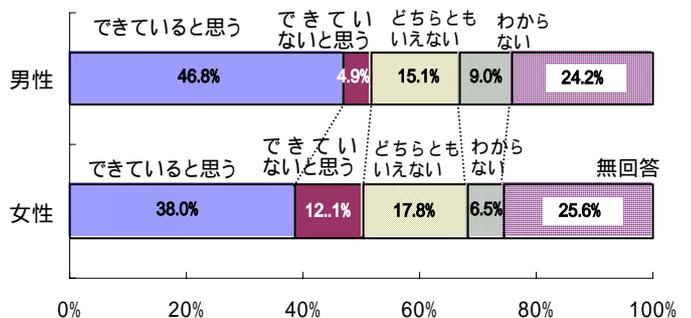
## 仕事と家庭についてのアンケート結果

釧路市の意識実態調査より（H12 実施）

### あなたは、仕事や家庭が両立できていると思いますか



### あなたの配偶者は「仕事と家庭」が両立できていると思いますか



### ことばの説明

【DV ドメスティック・バイオレンス】  
夫や恋人などの親密な関係の人がパートナーに対して継続してふるう暴力のことで、そのほとんどが男性から女性への暴力です。

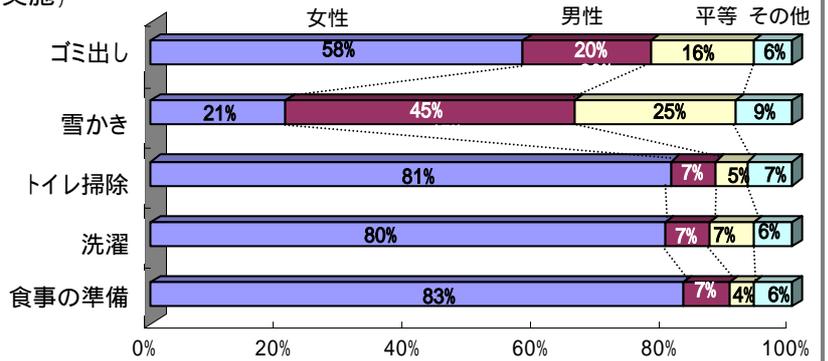
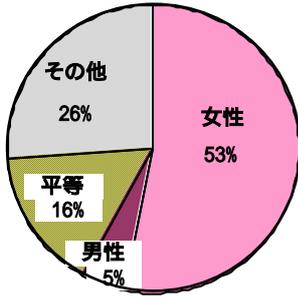


# 仕事と家庭についてのアンケート結果(その2)

釧路市の意識実態調査より(H12 実施)

## あなたの家庭の家事分担は、だれが主にしていますか？

家族の介護が必要になったとき、家族のだれが担当しますか？



## 男女共同参画社会に関する世論調査

(H14.7 内閣府調査)

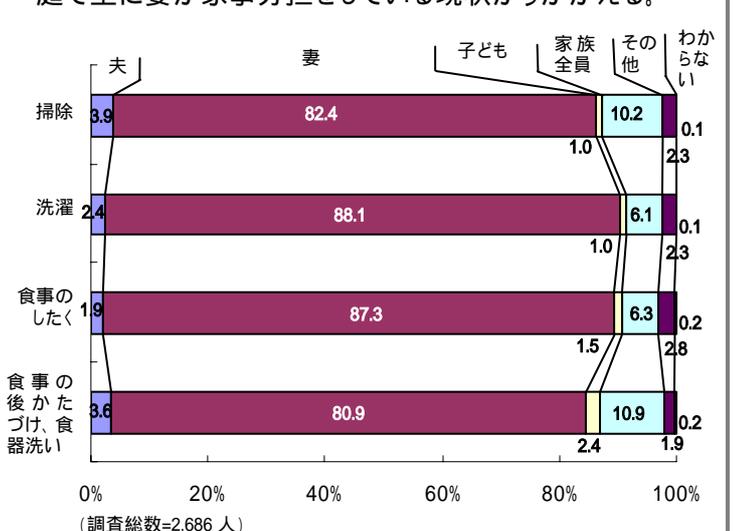
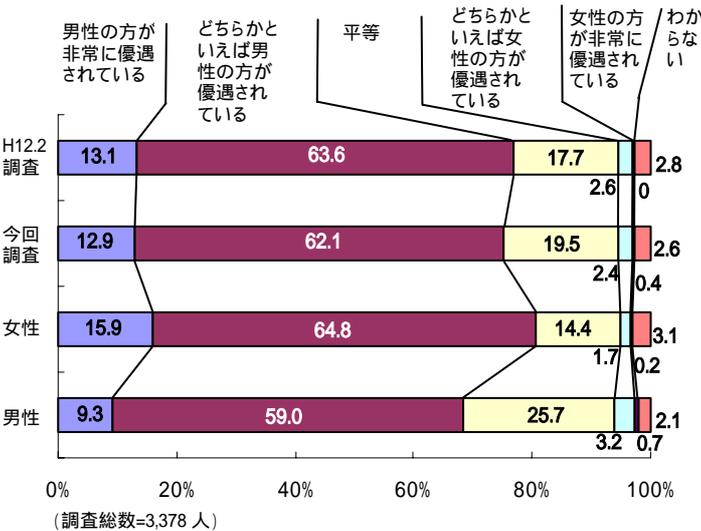


### 社会全体における男女の地位の平等感

男女の地位の平等感: 社会全体における男女の地位について「男性が優遇されていると思う」が 75%、  
「平等」が 19.5%、「女性が優遇されていると思う」が 2.8%となっている。  
平成 12 年の調査結果と比較しても大きな変化はみられず、依然として男性優位の社会であることがうかがえる。

### 家庭における家事分担

パートナーと暮らしている者に家事について主に誰が分担しているかをきいたところ、「妻」と答えた割合が掃除で 82%、洗濯で 88%、食事支度が 87%、食後のかたづけが 81%となっており、平成 4 年の調査結果と比較しても「妻」と答えた割合は低下しているものの大部分の家庭で主に妻が家事分担をしている現状がうかがえる。



## DV サポーター養成講座参加者の声から



DV 防止法が施行されたが、法の隙間からさらに暴力に脅かされる女性、被害にまき込まれる子どもたちの問題がおきている。加害者になりうる男性の非暴力援助(治療)対策の必要性にも同感する。しかし、DV 被害者である「女性の側にも問題がある」「加害者の男性も実は被害者である」との考え方の理解にたてないでいる。



平成 14 年 11 月 20 日生涯学習センターで開催(釧路市教育委員会・YWCA 共催) 講師:メンズサポートルーム代表

(Hさんの声から)

DV 被害者である女性へのサポートは勿論のこと、DV を根絶するためには、加害男性をなくさなければならぬ。「男は誰でも加害者になる可能性がある。」・・・メンズリブはこの考えで相談者の心を開く。女性はややく近年、自分の言葉で自分を表現できるようになってきているが、男性は相変わらず「ぼくだって大変なんだよ」と言えずにいる。この我慢が男性を壊し、弱い者(女性、子ども)へと向かわせる。男女両性が自分の気持ちを語ることを表現できるようになることが暴力を回避できる道だと、あらためて学んだ。

(Mさんの声から)